

# 介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者氏名: 90歳代 女性 要介護2

病名: 右第1～2肋骨骨折, 廃用症候群

利用サービス: 入所

経過: 令和7年3月に家族の運転する自動車にて移動, 壁に衝突し受傷, 武蔵野赤十字病院へ救急搬送。右第1～2肋骨骨折の診断。保存的加療・自宅安静の指示となった。3月中旬頃疼痛増強にて歩行困難, 左右上肢痛, 背部痛の出現によりADL低下し全般介助となった。3日後、自宅生活困難により, 受傷以前の歩行能力の獲得, ADL能力の向上目的にてライフサポートねりまへ入所の運びとなった。

## 内 容

ご本人は肋骨骨折により, 背部, 左右の上肢の疼痛の訴えが強く, ご自身でほとんど動くことが出来ない状態で入所されました。わずかに身体を動かすだけでも激しい痛みがあり, 辛く険しそうな表情が多く見られ, 痛みの影響により, 全身的に緊張が強く, 常に手でぎゅっと洋服の襟を掴んでいる様子でした。起居移乗動作やトイレ動作は2人介助にて対応, 移動も車椅子全介助で, 常に辛く険しい表情が続く日々でした。

しかし, ご本人は「また歩きたい, 自分のことは自分でしたい」との意欲をお持ちでした。そこで, チームでは痛みの緩和を最優先に, 少しでも離床の時間を増やせるよう, 安楽な車椅子姿勢, ベッドポジショニングの検討, 疼痛が出現しない移乗方法やトイレ誘導など, リハビリ・看護・介護スタッフが一丸となって支援をはじめました。

関わりを重ねていく中, 次第に痛みの訴えが少なくなり, リハビリだけでなく日常生活でも前向きに取り組み, 毎日ご自身で1日のスケジュールや食事の献立をノートに記録し, 他ご利用者との関わりやスタッフとの会話が増えて信頼関係も構築され, 見た目の若々しさから99歳には見えないと, みんなの話題になるほど明るく元気な表情が見られるようになりました。

最終的には, 歩行器歩行にてADLも修正自立, 階段昇降も修正自立を達成しました。また, 受傷前は日課だった両膝をついての雑草の根っこ取りも出来るようになり, 目の輝きを取り戻されました。そして, ありがたいことに当施設をととても気に入っていただき, 退所後は通所リハビリテーションに通われます。

100歳目前のご高齢であっても, ご本人の強い思いと多職種との関わりでここまで元気な表情や意欲を取り戻すことが出来る。今回のこのご入所者のキラキラした姿は私たちにとって, 看護・介護・リ

ハビリの大きな力を改めて実感させていただきました。